

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2371		
科目名	民事手続と法 I		
担当教員	佐藤 安紘		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 4		
講義室	1207	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省を持って、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（25%） H1 論理的思考（25%） H2 批判的思考（25%） I1 理解・分析と読解（25%）		
教員の実務経験	弁護士として多様な紛争業務を扱ってきました。本授業では、紛争を解決する際の手続上のルールについて、実務上の知見と経験を活かして、社会生活の中から生じる紛争がどのように解決されるのかを具体的に検討します（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 進期～ 4 発展期		
科目概要・キーワード	社会生活を営む中では、意見の対立が生じ、場合によっては紛争に発展することがあります。紛争が生じた場合、当事者間の話し合いで解決することができればよいですが、各当事者の見解の相違が大きく、当事者同士では十分な解決ができないような場合は、裁判所や第三者を間に入れて解決する必要があります。この場合、裁判所や第三者はどのようなルールに従って紛争を解決していくのでしょうか。本講義では、日本で用意されている紛争解決のルール（特に民事訴訟法のルール）とはどのようなものかを具体的に検討します。 授業形態は適宜双方向のやり取りを含めながら講義形式で行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：紛争、民事訴訟、紛争解決		
授業の趣旨	■副題 紛争解決のルールを学ぶ。 ■授業の目的 社会に出て、紛争に直面した場合に、その紛争がどのように解決されるのかを具体的にイメージできるようにすることを目的とします。 ■授業のポイント		

	法律や手続の学修は抽象的な議論になりがちですが、この講義では、できる限り、具体的な事例を念頭に置いて、具体的に考えることを目指します。										
総合到達目標	紛争が生じた際に、どのようなプロセスを経て解決されるのかの具体的なイメージを持てるようにするため、民事訴訟法等に定められたルールが現実の裁判においてどのように適用されているのかを具体的な事例を通じて修得する。 ・民事訴訟全体の流れをイメージすることができる（第1回、第14回）。 ・民事訴訟の具体的な手続についてイメージし、事例を交えて分かりやすく説明することができる（第2～第7回、第11～13回）。 ・立証や事実認定のプロセスについて、事例を交えて分かりやすく説明することができる（第8回～第10回）。										
成績評価方法	■以下の方法で総合的に評価します。 「授業参加度」として、授業中の質疑応答における発言を重視します。また、「授業内試験」として授業で解説した紛争解決のルールの修得の程度を確認します。 ■(適用ルーブリック-割合)E1（25%）、H1（25%）、H2（25%）、I1（25%） ■授業参加度(50%)、授業内試験(50%) (評価基準)授業参加度の把握のため、毎回の授業中の発言の内容を見ます。筆記試験では設問に対する問題の所在及びそれに対する自分の考えが分かりやすく論述されているかを見ます。 (フィードバック方法)質疑応答が終わった後、適宜、コメントします。筆記試験については授業内で問題の所在や考え方を説明します。										
履修条件											
履修上の注意点											
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義で取り扱う紛争解決の大きな流れをイメージできるようになる（E1、I1）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 なし ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 法律相談・警告・交渉 ②授業概要 訴訟前の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第1回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 訴えの提起 ②授業概要 訴訟提起の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第2回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 答弁－本案前 ②授業概要 訴えの提起に対する答弁の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第3回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義で取り扱う紛争解決の大きな流れをイメージできるようになる（E1、I1）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 なし ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。	2	①授業テーマ 法律相談・警告・交渉 ②授業概要 訴訟前の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第1回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。	3	①授業テーマ 訴えの提起 ②授業概要 訴訟提起の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第2回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。	4	①授業テーマ 答弁－本案前 ②授業概要 訴えの提起に対する答弁の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第3回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
回	内容										
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義で取り扱う紛争解決の大きな流れをイメージできるようになる（E1、I1）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 なし ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。										
2	①授業テーマ 法律相談・警告・交渉 ②授業概要 訴訟前の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第1回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。										
3	①授業テーマ 訴えの提起 ②授業概要 訴訟提起の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第2回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。										
4	①授業テーマ 答弁－本案前 ②授業概要 訴えの提起に対する答弁の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第3回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。										

5	①授業テーマ 答弁－本案 ②授業概要 訴えの提起に対する答弁の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第4回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
6	①授業テーマ 口頭弁論 ②授業概要 裁判所が主宰する口頭弁論の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第5回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 なし
7	①授業テーマ 弁論準備 ②授業概要 裁判所が主宰する弁論準備（特に争点の整理）の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第6回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
8	①授業テーマ 立証－書証 ②授業概要 裁判における証拠、証明、立証の概念や手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第7回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
9	①授業テーマ 立証－人証 ②授業概要 裁判における証拠、証明、立証の概念や手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第8回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
10	①授業テーマ 立証－事実認定 ②授業概要 裁判における事実認定のプロセスについてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第9回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
11	①授業テーマ 和解 ②授業概要 裁判における和解の手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第10回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。

	④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
12	①授業テーマ 判決 ②授業概要 判決の手続や効力についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第11回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
13	①授業テーマ 付随する手続－公開の原則と秘密の保護 ②授業概要 閲覧等制限や秘密保持命令等の付随する手続についてイメージできるようになる（E1、I1）。事例問題について自分の考えを口頭で説明できるようになる（H1、H2）。担当者の実務経験を踏まえて講義します。 ③予習 第12回の授業で提示する事例問題に取り組む（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
14	①授業テーマ 全体のまとめ ②授業概要 第1回から第13回までに学修した内容を説明できるようになる（E1、H1、H2、I1）。 ③予習 第1回から第13回までのノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。 ④復習 ノートやレジュメを用いて授業内容を振り返る（120分）。
15	①授業テーマ 授業内テスト ②授業概要 第1回から第13回までに学修した内容について時間内に事例問題に取り組む（E1、H1、H2、I1）。テスト実施後に問題の所在や考え方を説明します。 ③予習 なし ④復習 なし
関連科目	立憲主義と統治、憲法と人権、民事法Ⅰ（RMGT2341）
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開講時に告知します。 ■オフィスアワー：授業前後の時間に教室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%；パブリックセキュリティ25%；グローバルセキュリティ25%；情報セキュリティ25% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学30%：法学70%

